



令和5年2月2日

株式会社新菱

北九州市環境局環境イノベーション支援課

報道機関各位

## 太陽光パネルリサイクル工場の竣工式の開催について

株式会社新菱が建設していた太陽光パネルのリサイクル工場が竣工しました。

2012年に固定価格買取制度（FIT）が導入されて以降、太陽光発電施設の設置が急速に進んでいます。太陽光発電に使用されている太陽光パネルは、製品寿命が20年から30年とも言われており、今後、大量に廃棄されることが予想されています。

新工場は独自技術の熱分解処理炉と高度選別のリサイクル処理ラインを備え、廃太陽光パネルの資源回収率99%を実現し、新工場としての年間処理能力は9万枚を見込んでいます。

- 1 日時 令和5年2月9日（木）11:00～12:30
- 2 場所 株式会社リサイクルテック 太陽光パネルリサイクル工場  
（北九州市若松区向洋町10番31号）

3 主催者 株式会社新菱

4 内容

- 11:00 神事
- 11:35 プレゼンテーション （株）新菱
- 11:40 主催者挨拶 （株）新菱 代表取締役社長 土山 正明
- 11:45 来賓祝辞 北九州市副市長 梅本 和秀  
三菱ケミカル（株）ASBG 戦略企画本部長 関 基弘
- 11:55 起動式
- 12:00 内覧会



- 5 新工場概要 新工場の詳細は、別紙をご参照ください。
- 6 取材方法 当日は、新工場に隣接する北九州市エコタウンセンターに臨時駐車場を設けています。担当者が誘導しますので、その指示にしたがっていただきますようお願いいたします。

### 【問い合わせ先】

（竣工式や事業内容等について）



新菱  
Shinryo

株式会社新菱  
担当：総務部 平岡、馬場  
（093-643-2777）

（市の政策等について）

北九州市環境局環境イノベーション支援課  
はまへ  
担当：村上、濱邊 （582-2630）

2023年2月2日  
株式会社 新菱

## 太陽光パネルリサイクル工場のご紹介

太陽光パネルは、2012年の太陽光発電余剰電力の固定価格買取制度（FIT）開始を契機として全国的に導入拡大されました。太陽光パネルの製品寿命は20～30年と言われており、廃棄量は2030年頃から徐々に増加し、ピーク時の2035～37年には、年間17～28万トン排出されると見込まれております（NEDO推計）。これは、全国産業廃棄物の最終処分量の1.7～2.7%に相当する莫大な量です。

又、2050年のカーボンニュートラルに向けた取り組みとして、今後も太陽光パネルの設置が更に拡大することが予想され、使用済み太陽光パネルのリユース、リサイクルがこれまで以上に重要になると考えております。

弊社では、2010年から、この太陽光パネルの大量廃棄に向け資源循環を可能にするために、（国研）新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）との技術開発を行い、また、環境省の実証事業にて熱分解処理方式によるリサイクル技術の開発を行ってまいりました。

この度、北九州市若松区に、日本初となる熱分解処理方式の高度リサイクル工場を竣工する運びとなりました（図1.参照）。尚、本プラントは、環境省「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」を活用して導入しております。

今回竣工する弊社太陽光パネルリサイクル工場の処理能力は年間約9万枚（重量ベース約1,440ト）で、既存の破碎式処理ライン6万枚と合わせて、弊社として年間約15万枚の処理体制を構築します。

この高度リサイクルは、各素材を高度選別することで、金属（アルミ、銅、銀）に加え、ガラスの水平リサイクルが可能となり、カーボンニュートラル、CO2削減に貢献することができます。リサイクル工場から排出される廃棄物はほぼ無く、サーマルリサイクルを含めるとリサイクル率は99%以上を見込んでおります。国連が掲げている持続可能な開発目標（SDGs）にも貢献するものと考えております。

この熱分解処理方式の高度リサイクルプラントは、エチレンビニルアセテート（EVA）等の有機物を熱分解処理する炉と高度選別ラインとで構成しております（図2.参照）。

昨年（2022年）12月に中核となる熱分解炉の据え付けを終え、本年（2023年）2月に竣工してテスト稼働を開始し、2023年度からの本格稼働を予定しております。



図 1. 太陽光パネルリサイクル工場

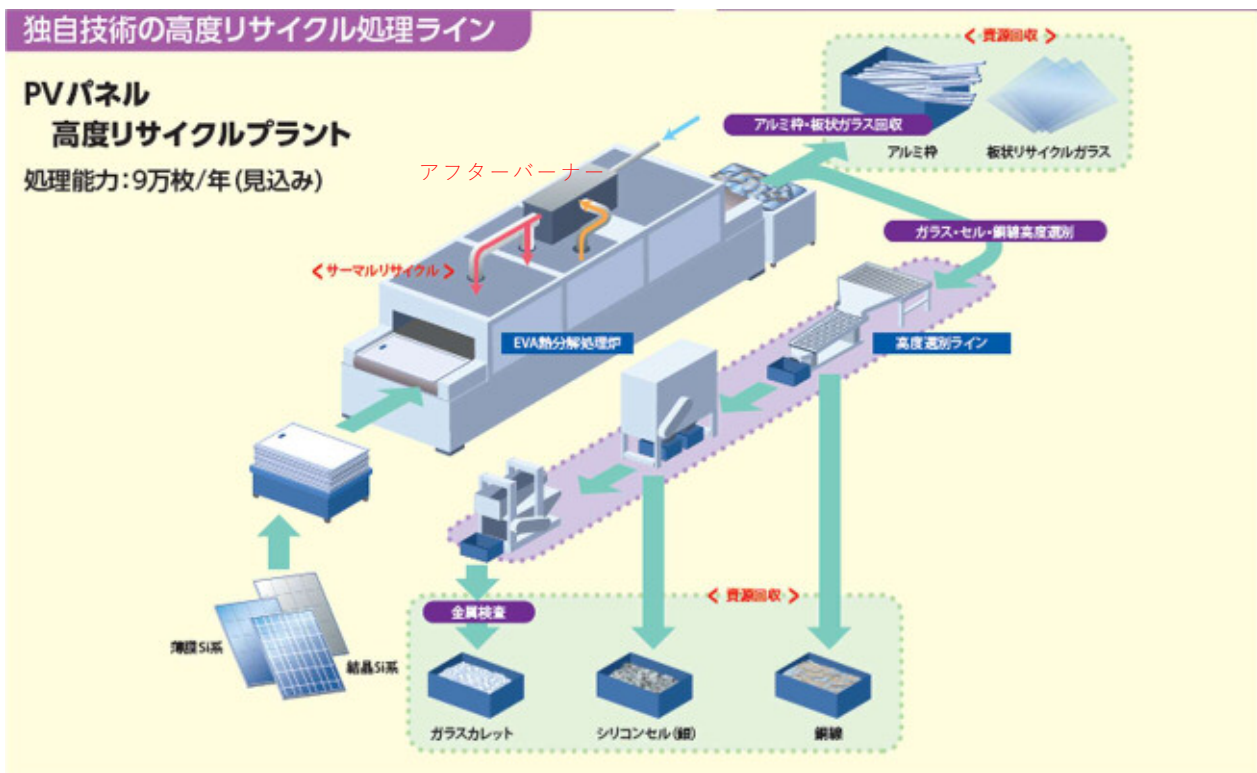


図 2. 太陽光パネル高度リサイクルプラント

以上